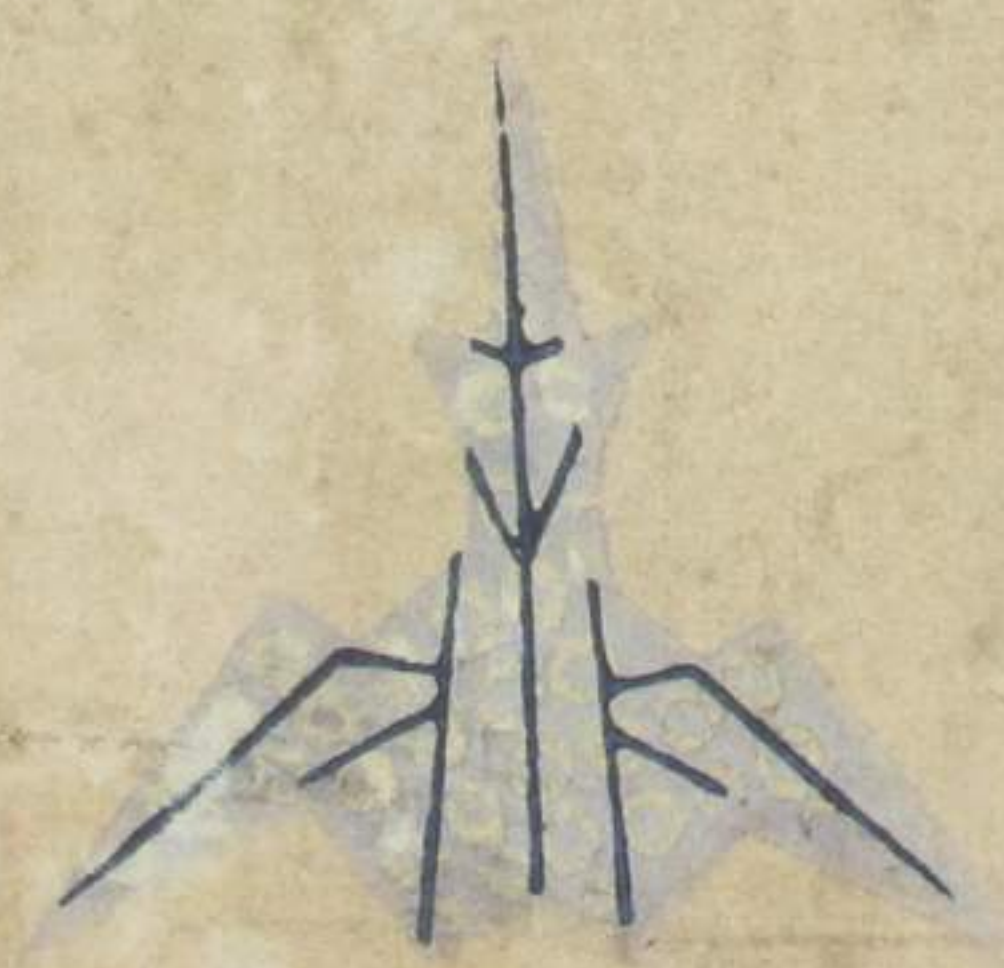


繪入詩集小夜曲

竹久夢二作

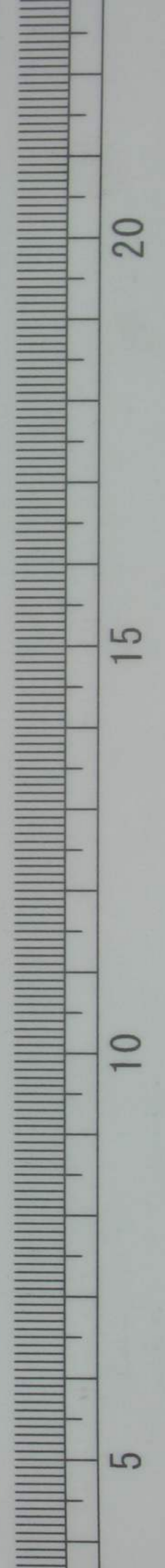
Handwritten characters in the top right corner, possibly 'TY'.



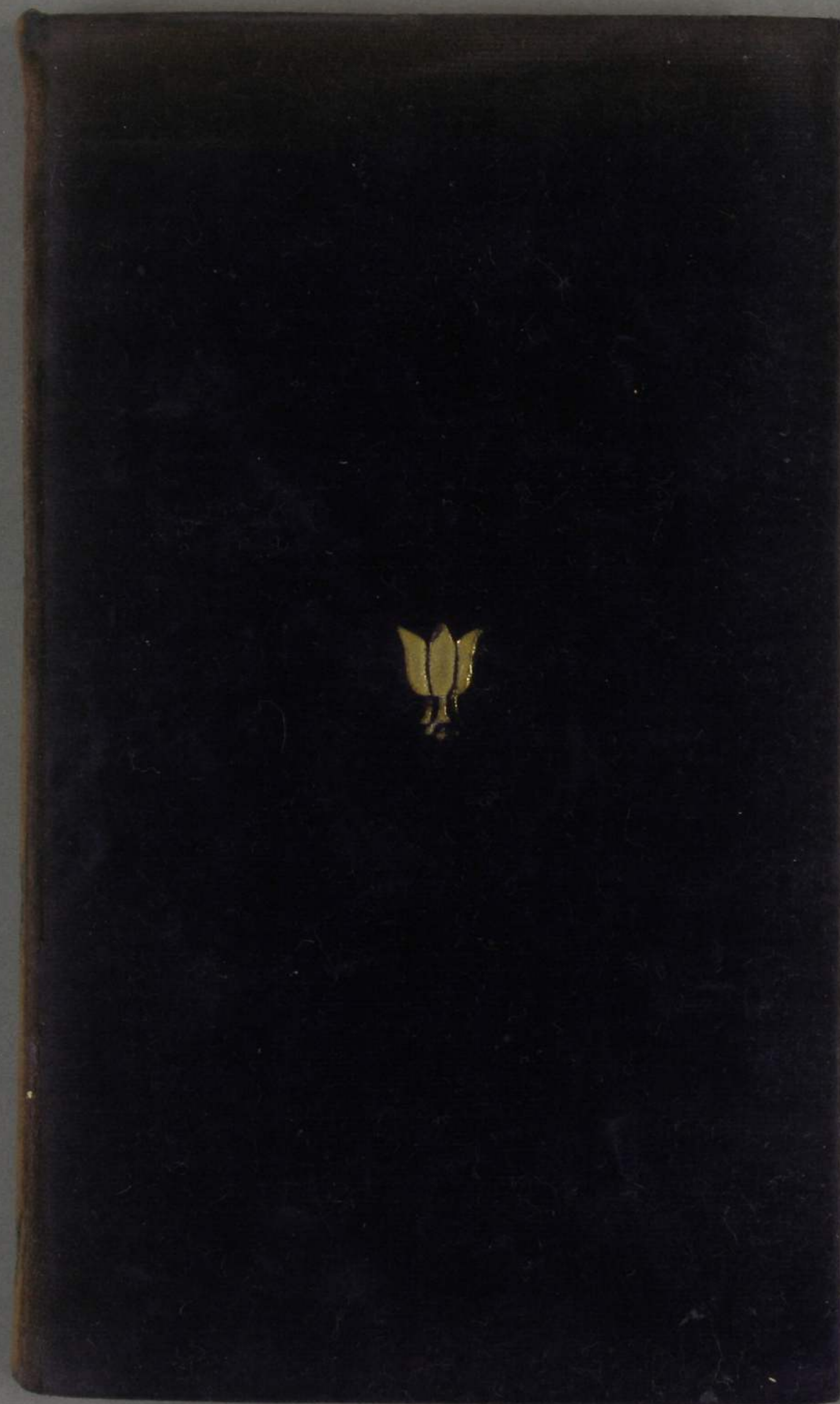
Handwritten characters in red ink at the bottom center, possibly '10' and '100'.

SERENADE

YUMEZI
TAKEHISA



小
山
田
山
山
山



7

繪入詩集

小夜曲



竹久夢二作

恩地孝裝幀

1915

新潮社版



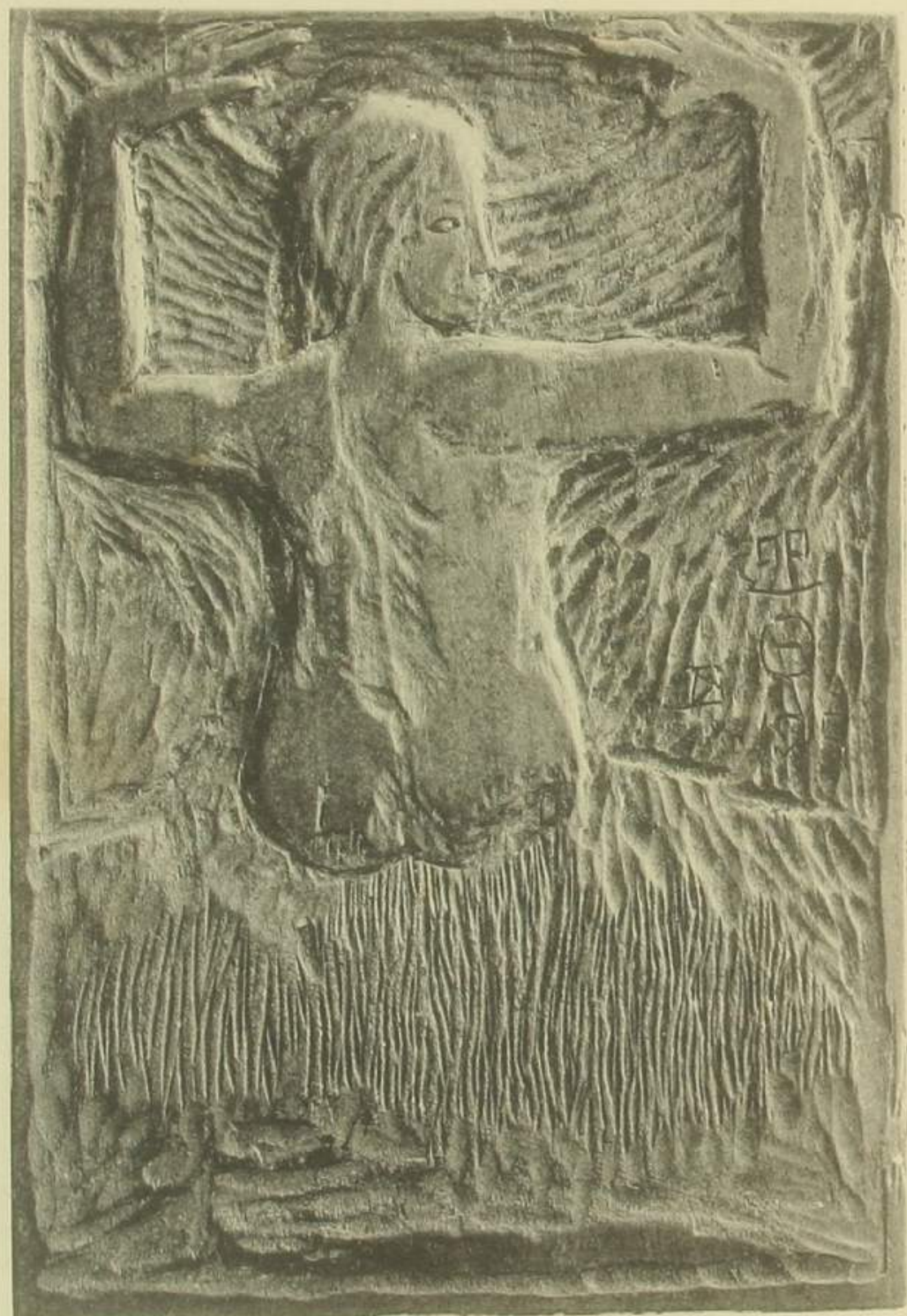
①

SÉRÉNADE



K.O.

いとしきひとに



24. 10. 18. 19. 20. 21. 22.









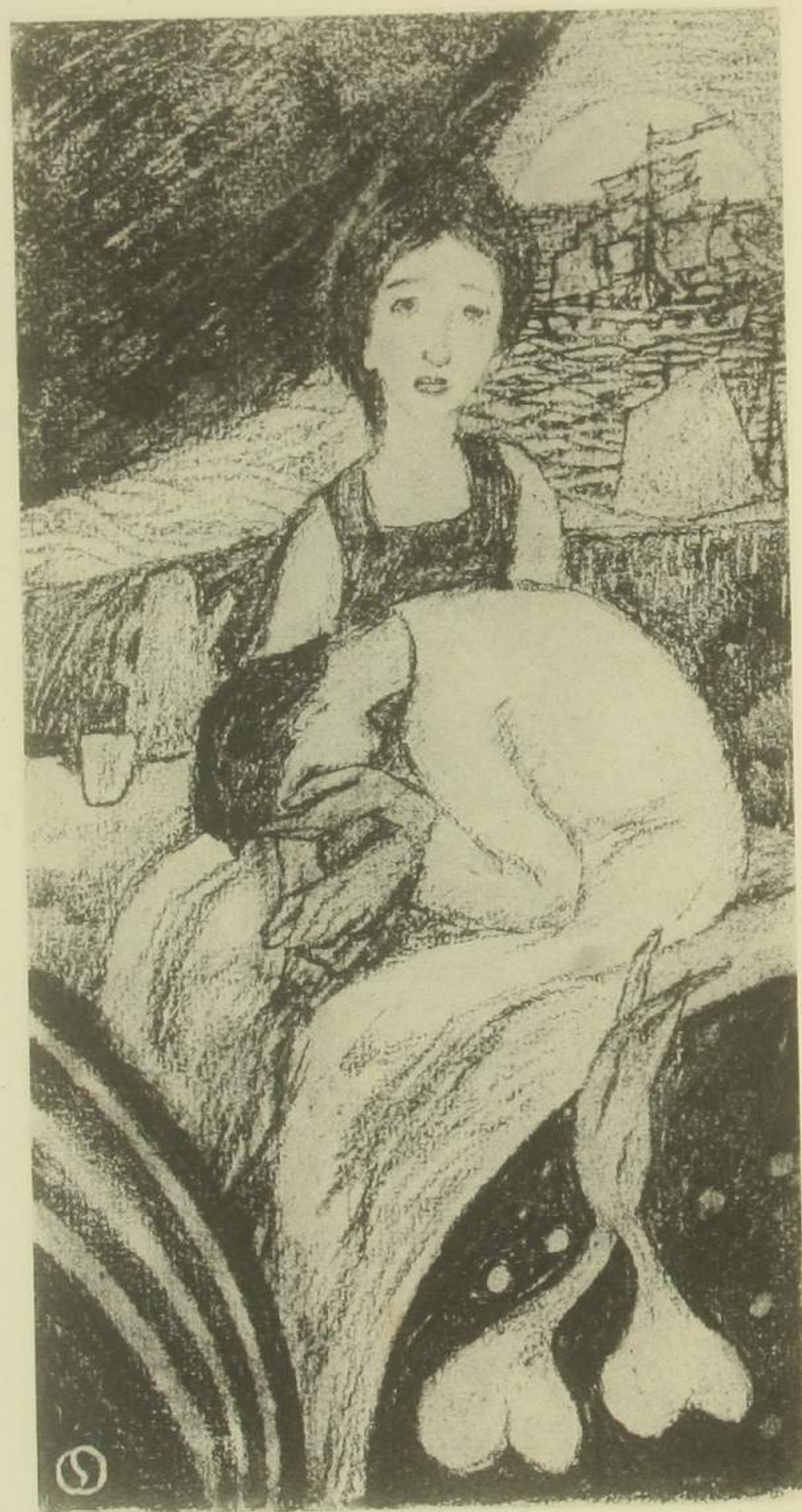




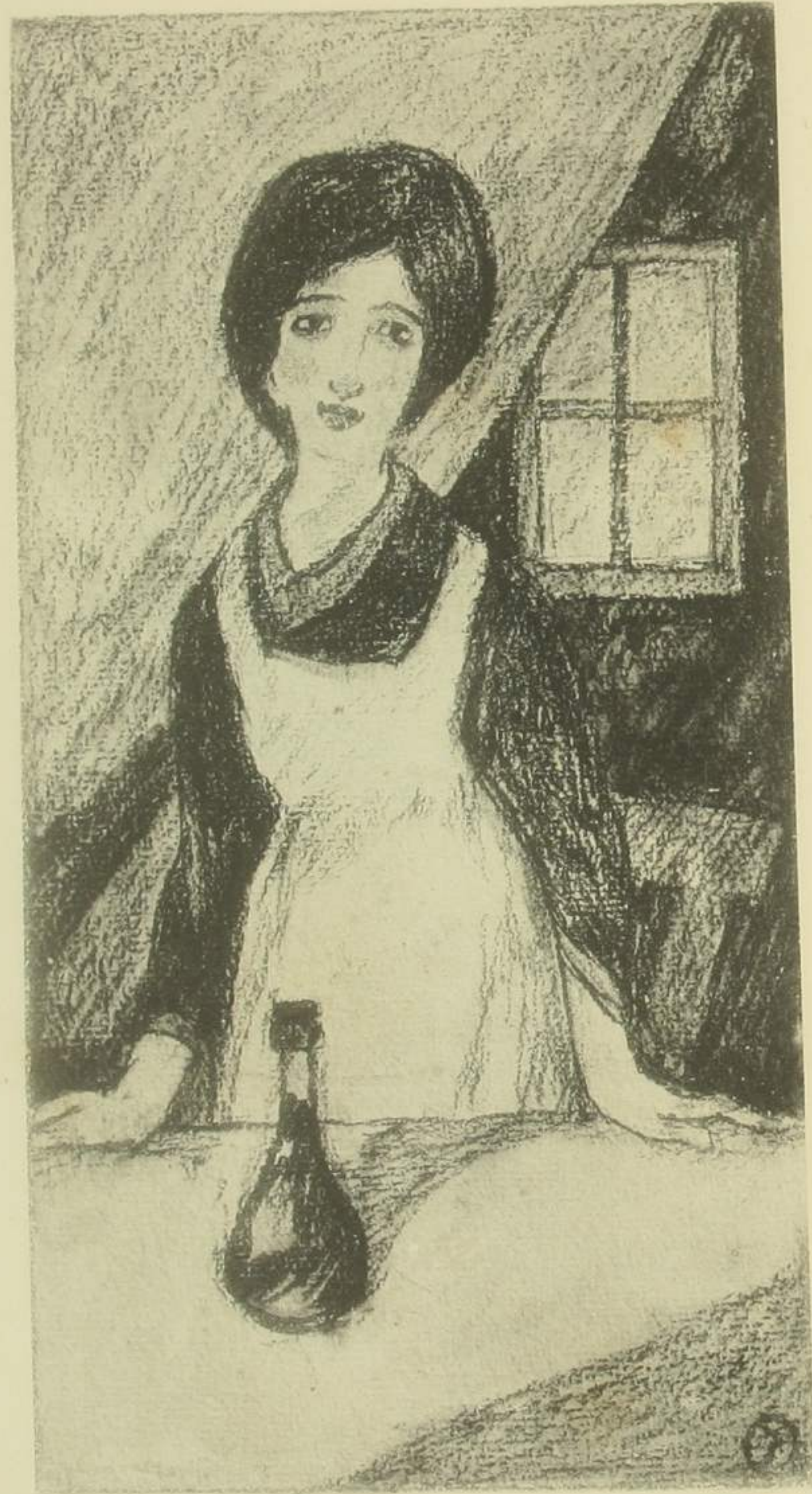




©













[The right page of the book is blank, with some faint smudges and discoloration.]



小^せ

夜^よ

曲^{きょく}

SÉRÉNADE ㊦ ㊦ ㊦

北はく
越えつ
行かう

小
夜
曲

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

路みち遠とほし

ゆくてはくらき野の路ぢのはて

泪なみだをのみてちつとみやれる。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

急いそがるゝ

路みち香かほかなり

幾いく山やま河がは

ひとたびゆかばまたかへるまじ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

さらばとて
かへりみすればこれはこれ
涙ながれて街もみえなく。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

また再
みじかとおもへばさしぐまる
街にも身にも未練はなけれど。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

港屋の
波に千鳥の提燈に
灯をいろゝ頃ぞ
われ遠くきぬ。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

七年を
現とみればはかなしや
夢とおもへばあまりかなしき。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

これやこの
死ぬに死なれず死なざれば
今はわが身のおきどころなし。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

別れえぬ男の意地とおもへるや
この悲は
戀か情か。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

越この海うみや
こゝはふたりが死し所ところ
仇かたきなれども手てをとりてなく。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

殺ころすとも
そなたはそなたわれはわれ
ふたつの死し骸かかゝはりもなし。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

夕闇は
ふたりをこめてうつゝなく
そこはかとなく千鳥なけるも。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

なげだせし命なれども
殺しえぬ
憎きそなたは仇か味方か。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

なげだせし
この頸^{うなじ}さへ 腕^{かひな}さへ
わがものならず
なんとすべけむ。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

この指^{ゆび}を
この白^{しろ}き手を
この肌^{はだ}を
さすとも恨^{うらみ}なきにと泣^なけど。

SÉRÉNADE ❧ ❧ ❧

悲哀かなしみの
責おとが債めはきみに残すまじ
われ死しにゆかばともに埋うづめむ。

❧ ❧ ❧ SÉRÉNADE

きみ刺ささば
われもいかでか死しなざらむ
死しにゆくものに何なにの債おとがぞ。

SÉRÉNADE ❧ ❧ ❧

靈は今
涙にうかび聲をなみ
けなばけぬがに生けりともなし。

❧ ❧ ❧ SÉRÉNADE

きみ泣かせわれと泣かるゝ
冬の雨
わびしき宿をめぐりて降れば。

SÉRÉNADE ❧ ❧ ❧


さしぐめる
ひとの頸うなじのたよりなさ
とのもは雪ゆきのひそやかにふる。

❧ ❧ ❧ SÉRÉNADE

手を取りて
きみものいはずわれいはず
大天地おほあめつちのいまか消ゆらむ。

SÉRÉNADE   

港^{みなと}
屋^や
風^{ふう}
景^{けい}

   SÉRÉNADE

たましひのぬけたうつそみ
とぼくとあてなく歩む
街^{まち}の片^{かた}影^{かげ}。

SÉRÉNADE ❧ ❧ ❧

あはれまた
泣きたまふかや たまさかに
逢へる今宵ぞよきことを言へ。

❧ ❧ ❧ SÉRÉNADE

なつかしき娘とばかり思ひしを
いつか悲しき戀人となる。

SÉRÉNADE   

手にまけば恨はながし
かいだけば命みじかし
きみが黒髪。

   SÉRÉNADE

春なれば
ほのかに花も咲きつらむ
そよらと人の帯やとくらむ。

SÉRÉNADE ㊦ ㊦ ㊦

またみむはいつの宵よども
月草つきくさの
あはれ今宵こよも咲きいでにけり。

㊦ ㊦ ㊦ SÉRÉNADE

なげけとて
チンダ・ダングと鐘かねの鳴る
わけて暮春ぼしゆんはものゝかなしき。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

青^{あを}麥^{むぎ}の青^{あを}きをわけて
はる^{はる}ぐ^ぐと
逢^あひ^ひにくる^こ子^ことおもへばかなしも。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

仇^{あやま}情^{なま}
かけまじものとちかひしを
戀^こなりしとは君も知りしや。

SÉRÉNADE   

片時かたときも忘れねばこそきつるにと
きけばかごともあるあさましからず。

   SÉRÉNADE

ほのかなる
黒髪くろかみのかげの黒子くろこに
涙かけしと人にしらゆな。

SÉRÉNADE ❧ ❧ ❧


なにゆゑの
涙ときけど答なし
命きゆべしものいひたまへ。

❧ ❧ ❧ SÉRÉNADE

かこといふ口は何もて糊せまし
唇こそはよしとおもへる。

SÉRÉNADE   

手^てをはなち
涙ぬぐひてかへしやる
心細^{こころほそ}やのきみが腰紐^{こしひも}。

   SÉRÉNADE

これやこの
抱^かかば露^{つゆ}と消^きえなまし
なぐさめかねしきみが現^{うつま}身^ま。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪


君かへす路は夕ゆふとなりゆふにけり
いざや戸をひけ
ひとりねてまし。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

ふりかへり
ふりかへりゆく後影うしろかげ
きみまつ母も寂しき一人ひとりぞ。

SÉRÉNADE   

ゆふぐれはかならず君のよるとしも
かねごとせねど
出窓^でこひしや。

   SÉRÉNADE

死ぬばかりこがれしひとは
わがまへにありとおもへど
うつゝともなし。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

きなくくと
何をさしぐむ柳やなぎぞも
ひそやかにふる夜よるの五月さみ雨あめ。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

逢ふとみし夢ゆめも束つづの間ま
夏の夜は
君が帯おびよりいやみじかけれ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

あはれきみ
しのび泣くとも音^ねなたてそ
ふたりの戀^{こひ}をしられぬがため。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

なにかして
ふつと涙のうかみいづ
スウキトピイをつまむとせしに。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

この年月
風もいとひて育てたる
親にそむけとわれやいひけむ。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

草色の帷はふかくたれてねむ
戀の小鳥ののがれざるやう。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

眼をとづれば
心のうちにかみいづ
なかまほしけれひとの眸まなこ

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

ひとり子の
しろき白玉しらたままなむすめ
かなしき戀をわれゆゑにする。

SÉRÉNADE ❧ ❧ ❧

きみはきみは
かなしや親の眼をぬすみ
受話器とれると泣く音きこゆる。

❧ ❧ ❧ SÉRÉNADE

いつしかに
短かき夏の夜もあけぬ
かなしき文をよみがてにして。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

幾^{いく}日^{にち}きみに
逢^あはさりしやとかよのふる
あはれや指^{ゆび}のほそりたるかも。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

今^{いま}宵^よかも
われ死^しにはてむわれ死^しなば
鈴^{すず}かけの葉^はの青^{あお}く残^{のこ}らむ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

鉦叩かねたたき
こそなきいづれ
どこをせうどにたづねましかば。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

かの娘むすめ
われと遊ばずなりしより
通草とくそうはいつか實みとなりけり。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

今ははや
片かたより便さへたえはてぬ
なにをたよりに床とこをはなれむ。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

そらだのめ
それをたよりにこの橋はしを
昨日きのうのごとく今日けふもわたるや。

SÉRÉNADE ❧ ❧ ❧

時^{とき}ふれば
なべて涙はきゆるもの
いたましむるな若きたましひ。

❧ ❧ ❧ SÉRÉNADE

朝^{あさ}の床^{とこ}
われなほ今日^{けふ}も生きてあり
この歡喜^{よろこび}のあたらしきかな。

SÉRÉNADE ❀ ❀ ❀

廣重の家のうしろの堀割は
流れもあへず
いまもあるらむ。

❀ ❀ ❀ SÉRÉNADE

さりげなき人の噂も心なや
詩も繪筆も焼かれぬといふ。

SÉRÉNADE

SÉRÉNADE

いつしらず

またこの橋によりしよな

月にさそはれいでしならぬに。

相逢あひまふが

終つひの望のぞのごとくにも

あふことばかりおもふ頃かな。

SÉRÉNADE ❸ ❸ ❸

そのかみの
三味しゃみの師匠しやうをたづゆき
あの娘このことをきくもかなしや。

❸ ❸ ❸ SÉRÉNADE

つぎの夜も
はたつぎの夜もつぎの夜も
逢はじとおもへば涙ながるよ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

戀^{こひ}知^しらず情^{なさけ}知^しらずの石^{いし}地^ぢ藏^{ざう}
か^かの液^{たれ}垂^{たれ}掛^かさき^{さき}てす^すてな^なむ。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

西^{にし}河^が岸^しのお地^ぢ藏^{ざう}様^{さま}の情^{なさけ}し^しらず
御^み籤^{くち}をひ^ひけ^けば^ばま^また^た凶^{とら}と^とで^でる。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

婢めかけがひそかに告つげし
消息せうそくの「死しぬばかり病やむ」と
いふはまことか。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

消息せうそくに
「枕邊まくらべちかく鳴かむもの
なくもかひなき籠かごの蟬せみは」

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

蝦夷松前

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

婢よ。

とくくかへり告げよかし
われ健かに君をまつとぞ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

蒼^{ちまた}ゆかば
さみしきこともわするかと
蒼^{なみだ}へいで、涙ぬぐへる。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

ゆけどく
あはれぬ子ゆゑ
青山^{あをま}の青きをわけて
今日^{けふ}もゆく身か。

SÉRÉNADE ❀ ❀ ❀



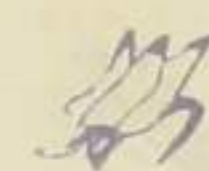
あぢきなや
たれもつれなくあたらねど
たれもわがみにかゝはりもなし。

❀ ❀ ❀ SÉRÉNADE

街の子は街の娘と遊ぶめり
この悲哀にあづからぬがに。

SÉRÉNADE   

それまではたゞそれまでは
健たかやにあらむとおもへば
涙なみだこぼるゝ。

   SÉRÉNADE

すこやかに木の葉ははそだち
春はるはきぬ。
このかひなはもたれにかけまし。

SÉRÉNADE 桜 桜 桜

春の雨

桜の花をこめてちる

たほやめならばけなましものを。

桜 桜 桜 SÉRÉNADE

今日は今日としてけふも暮れにけり

昨日につづく明日ならなくに。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

はかなさに
草にまるべはほろくと
眸毛のひまにおつる白露。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

ひとあはらばつみてかざらん野路の花
野路ゆきくれて
ひとあはらなく。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

つゝましく母の邊にゐて衣ぬふと
消息せうしをする
かなしき娘むすめ。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

春はるくれて
ほのかに青き夏なつくれば
わが世よさびしくなりまさるなり。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

雨あめの音ねは
間遠まとほになりぬ。
はるくくと
まだみもしらぬ港みなとおもほゆ。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

言ことにいでゝ
いはゞ山彦やまひこかへりこむ
いはでやひとりものおもふべき。

SÉRÉNADE ㊦ ㊦ ㊦

よるべなく寂しき命いたはりつ
青き繪具をとける頃かも。

㊦ ㊦ ㊦ SÉRÉNADE

春にそむき
いとはかなげにふるまへる
われならなくに涙ながるゝ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

いとほしく
われをいたはるはかなさに
しみぐ軒のきのあまだれをきく。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

嘆なげけとて
夕ゆふべの鐘かねはなりいづる
あはれはかなき身みのおきどころ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

つれなさも
戀のつらさもしりぬるを
こはこれたれを戀ふるにやあらむ。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

とりとめて悲しきこともあらざるに
心わびしく繪筆おもたや。

SÉRÉNADE

五月なかば
柱曆をはぐ指に
ふつとかなしき思出のあり。

SÉRÉNADE

白蓮の
しづくしらたましらくと
知らぬがにして忘れむものか。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

海濱哀歌

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

いつとなく
わするゝとなく文絶えて
あはれことしの夏もいぬめり。

SÉRÉNADE ❧ ❧ ❧

聴きにより編あ物ものをするわが少せう女にょ
ものやおもへる
スノウドロップ。

❧ ❧ ❧ SÉRÉNADE

なつかしや
芋いもの畑はたけの路みちとほく
郵便脚夫ゆうびんきやくふきたる朝あさあけ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

世よの掟おきて
やぶりに逢あひにこよといふ
男をとこのむりをゆるしたまふや。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

心こころ中の噂うわさもいつかたえにけり
濱はまの旅館りやくわんの夏もふけぬる。

SÉRÉNADE ❧ ❧ ❧

白き手を
われにあづけてうつゝなく
海みるひとになにのうつれる。

❧ ❧ ❧ SÉRÉNADE

戀人は
わがかたはらにつゝましく
紅き糸もて編物するも。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

逢はぬ日は
またあのことを母刀自に
きかれてやあらむ
ないてやあらむと。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

海をみて
けふのひと日はくらしけり
あすといふ日はいかにすごさん。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

鳥とべばきみかとぞおもひ
風ふけばきみかとぞおもふ。
かなしき通路。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

母の眼をしのびて
逢ひにくるひとの
いとや肩のこのほそりやう。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

かへらじと
徑のかたへにくづをれて
をさなきひとは音にたてゝなく。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

夏の夜は
わけて逢ふ夜はみじかきに
涙ぬぐひてもものいひたまへ、

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

九十九里
月見草つきみくささく濱はまづたひ
ものおもふ子はおくれがちにて。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

たまさかに
あひつるものを
いかなれば
ひたすらきみはなきたまふらむ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

世よの常つねの少女こゝめのごとく
いつはりをいふきみならば
すてゝもゆかれむ。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

けふもまた
濱はまの真砂まきさになが
わが足跡あしあとのつゞくあはれさ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

もの言はよ
きみが涙をさそふべし
抱きし肩をいちらしとみる。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

「別れては何をたよりに生きむ身ぞ」
涙のひまに言へることはも。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

樹^{じゆ}下^か低^{てい}唱^{しやう}

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

春^{はる}くれほ
また逢ふこともあるべけれ
さは泣くなかれ
いざや別れむ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

母と娘が
さゝやかにすむかの濱に
あはれさびしや春もきぬとぞ。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

「あの濱に
椿の花もさいて候
琴も上手になりて候」

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

かゝりしと
あの夜のきみのおもひいづ
濱の濱茄子さきいづる頃ぞ。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

死ぬ薬
袂にひめてなくといふ
風のたよりもたえてひさしや。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

來^くべければ
さな嘆^{なげ}きそとしかれども
若^{わか}き心^{こころ}のきゝわけもなき。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

日^ひは日^ひねもす
夜^よは夜^よもすがら
通路^{かよひ}にまてどくらせどまてどくらせど。

SÉRÉNADE ❧ ❧ ❧

おもふまじ
つれなきことはおもふまじ
旅はつれなきものときくもの。

❧ ❧ ❧ SÉRÉNADE

さばかりのこと嘆かじとおもひきり
草をつめども
唄をうたへど。

SÉRÉNADE   

現^{うつ}とも夢^{ゆめ}ともわかぬはかなさに
夕霧^{ゆめぎり}ふかくたれし通路^{かよひぢ}。

   SÉRÉNADE

詮^まもなき思ひすてよと
よする波^{なみ}
千鳥^{ちどり}はおもひきられずとなく。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

おもひわび
つみてはくづし
くづしては
濱の眞砂と今日もあそべる。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

母の眼を
ぬすみて逢ひにこよといふ
男の無理をゆるしたまふや。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

なにことぞ
今宵の胸のさわぎやう
あはで死なむといひしならぬに。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

草にねて
はるく 渚みわたせば
草の實ほどにみゆる漁人。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

夜^よあけぬれば
あけぬればとてあてもなき
望^{のぞみ}をかけて眠^{ねむ}らむとする。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

おもひ泣^なく
若^{わか}き心をすかしつゝ
曉^{あけ}をまつこゝろもとなさ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

旅ツツ

愁シウ

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

夜ヨもすがら

かたき枕まくらをもてあまし

とつおいつして

波なみの音ねきく。

SÉRÉNADE ㊦ ㊦ ㊦

白き風
麦のうへをばそよらふく
女役者の京訛かな。

㊦ ㊦ ㊦ SÉRÉNADE

さだめなく鳥やゆくらむ
青山の
青のさみしさかぎりなければ。

SÉRÉNADE ❀ ❀ ❀

いつかまた
逢坂山あさかやまの渡鳥わたりどり
きみおもひつゝひとり越えゆく。

❀ ❀ ❀ SÉRÉNADE

めのかぎり菜なの花はなさいて
蝶てんまひて 風かぜすこしある
山城やましろの國くに。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

夕ゆふかけて
きみが門邊かどべをさまよふは
螢ほたるなりしとひとにはつけよ。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

君をみに
はるゝ伊賀いがの山やまを越こえ
山城やましろの國くににいりしたそがれ。

SÉRÉNADE

橋のへに
きみは川邊の木のもとに
これが別れかきみが袖ふる。

SÉRÉNADE

川岸につみかさねたる材木に
身をなげかけてなげく若者。

SÉRÉNADE ❀ ❀ ❀

ほのぼのと
野茨のかをり身にしむも
あひにゆく子をおもひそむるも。

❀ ❀ ❀ SÉRÉNADE

淡紅の
小鹿の角をぬらすほど
若草山にふる春の雨。

SÉRÉNADE

SÉRÉNADE

つゝましく
悲しむまゝにかなします
心のそばのぬれし草かな。

みもはてぬ悲しき夢はおもひすて
ゆく旅人と
たれかおもはむ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

渡わた
鳥どり

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

こゝの港みなと
かしこの町まちと
わたりつゝゆかば
悲しきこともわすれむ。

SÉRÉNADE ㊦ ㊦ ㊦

よしさらば
旅のふすまのうすくとも
われらふたりが塙なるもの。

㊦ ㊦ ㊦ SÉRÉNADE

渡鳥

たれ渡鳥ならざらん

明日の塙のさだめなき子等。

SÉRÉNADE ❧ ❧ ❧




停車場の
闇に人目をしのびつゝ
わかれくゝにゆくもはかなし。

❧ ❧ ❧ SÉRÉNADE

かたはらに君やねむるとさぐりみる。
宵のねざめも
旅はかなしき。

SÉRÉNADE   

旅にあひ
旅にわかれてわすれゆく
かりそめごとゝきみはおもや。

   SÉRÉNADE

中七日。
人目をしのぶ旅籠住居
つれづれにひく三味も身にしむ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

落人おちびとに
身をなぞらへて忍しのびいづ
たわむれごとなみだも泪をさそふ。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

宵々よよは
人目をつゝみさまよひぬ
紙子姿かみこすがたにわれをなぞらへ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

母が家へ
君をやるとてむすびやる
帯ほそぐとやせにけるかも。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

ひとごとか
いなくいまは身のうへに
ふりくる雨ぞしみぐぬるゝ。

SÉRÉNADE ❀ ❀ ❀

吾娘子を
うまれ在所へかへしたる
朝の味噌汁うすくすめるも。

❀ ❀ ❀ SÉRÉNADE

母がすむ
在所へきみをかへしたる
朝の枕のしろきわびしさ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

まつといふ
かりそめごととも旅なれば
涙ぐむまであはれはそひて。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

いまごろは
母が手^てずから結びやる
髪^{かみ}に泪^{なみだ}やかけてかたれる。

SÉRÉNADE ❀ ❀ ❀

かへりきて
わが枕邊まくらべにものがたる
涙まじりの在所ざいしょの話。

❀ ❀ ❀ SÉRÉNADE

けふひと日
あはぬばかりに戀しさは
ひとゝせあはぬさまに戀しき。

SÉRÉNADE

なんといふ
やさしきことをいふ子ども
あきたまふまでわすれたまふな。

SÉRÉNADE

つゝましくやさしくものをいふ子ゆゑ
きかみやみぬるかすくのこと。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

この針を
こゝまでかへしいねてんと
時計をしめすかなしき戯たけむれ

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

かりそめの枕まくらはいともやはらかし
黒髪くろかみおちて夢ゆめは夜よにいる。

SÉRÉNADE ㊦ ㊦ ㊦

漫珠沙華
簪をさしてゆらくと
お紺が墓のかたはらにさく。

㊦ ㊦ ㊦ SÉRÉNADE

相の山
雨もふるやとなげきつる
宿のふすまにせまるたそがれ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

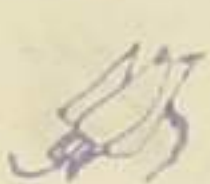
油屋の
浦庭暗く木槿の
ほのかに匂ふ秋の夕ぐれ。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

油屋の浦の田圃の漫珠沙華
お紺の血かといふはたが子ぞ。

SÉRÉNADE   

空^{そら}低^ひき鳥^と羽^はの入^い江^えをみをろして
やさしきことをいひし君はも。

   SÉRÉNADE

古^{ふる}市^しの街^{まち}のはづれの濁^{にごり}川^{がわ}
おはぐるとんぼとべばかなしも。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

遅々として雲もうごかぬ神路山
やさしき涙きみへながるゝ。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

酔どれの腕をくよりておどくと
走りよりたるきみを忘れず。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

いまははや
これが別れの宴かと
涙ぬぐひて三味とりあぐる。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

明日よりは
また揆とりて唄うたふ
因果の身かといひてなげきぬ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

せまりくる
別れの時ときをまてる間まの
やるせなき身はひとつとぞなる。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

かりそめの
旅たびの別わかれとおもへども
あかず手をととり涙ながすも。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

いたはりつ
いたはられつゝたちつくす
山の峽なる夜の停車場。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

おくらるゝ我身も
おくる君が身も
けふよりいかに淋しくすまむ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

夜ふけて
二人降りたつ停車場の
敷石の音におどかれぬる。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

刻々に
遠ざかりゆくおもかげの
かなしみのはては涙とぞなる。

SÉRÉNADE   

このまゝに

鳥と鳥とのわかれより

あはれはかなく別るゝふたりか。

   SÉRÉNADE

さしよする頬のつめたさいちらしさ
きれぐにいふわかれのことば。

SÉRÉNADE ❀ ❀ ❀

いやとほく
きみにわかれてゆく旅の
山の谷々秋ふかみゆく。

❀ ❀ ❀ SÉRÉNADE

岐阜の山
山の谷々花さかば
またかへりみむ
すこやかにあれ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

木會川きごうがわや
みぎわくの野の花はなも
かりそめならずなつかしきかな。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE



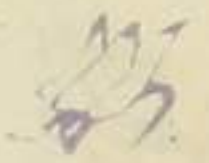
山の宿やまのしゆく
ひとりしてさすひとはりの
傘のしづくにぬるゝ片袖かたそで。

SÉRÉNADE ㊦ ㊦ ㊦

鐘鳴れり。
木曾の福島秋なかば
さかりしひとをおもひねにして。



㊦ ㊦ ㊦ SÉRÉNADE

物思
木曾の棧橋たよくと
あやふくわたる戀のぬけがら。

SÉRÉNADE   

木曾川の

みぎわにさけるむらさき紫の花のかはゆし
ひとにたれば。

   SÉRÉNADE

宵々の

きみがやさしきもの越しを
おもひぞいづる旅のふすまに。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪




こゝはこれ
美濃と飛驒との國境
とほくわかれてわれやきにけむ。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

なんといふやさしき花ぞ
手につめば
つまるまゝに
露とけにつゝ。

SÉRÉNADE   

かりそめの
別れとおもひいさぎよく
わかれてきつるわれにやはあらぬ。

   SÉRÉNADE

けふの日は
旅にまぎれてすぎぬべし
あすよりいかにおもひすごさむ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

つかれはてしなく
夜汽車の窓にうちかくる
腕かはゆくやせにけらしも。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

かくばかり戀しきものを
かの宵に
なにとて別れかへりこしやと。

SÉRÉNADE ❸ ❸ ❸

戀慕夜樂

❸ ❸ ❸ SÉRÉNADE

人々の

眠れるなかにひとりさめ

おもへることはみなきみがこと。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪




三の糸
きれなばきれねむすぶとも
どうせそはれる仲ぢやないもの。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

いそくと
軒安燈に灯をいるよ
あるじのつまの襟にふる雪。

SÉRÉNADE   

たれをとて
おもひきわめて戀こふならず
泣かまほしさの心こころなるらむ。

   SÉRÉNADE

しづごゝろなく
カフエの卓たに夜よるをまつ
このわびしさをたれにやらなむ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

はしたなきちまた卷の人の口のはに
かひなくたゝむ名こそをしけれ。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

いつしらず
身は公園の掛椅子かいすに
夜をまつ人となりよにけらしな。

SÉRÉNADE ❧ ❧ ❧

いまごろは
さぞや曲輪くわのとりさたに
そなたの母もないてあるらむ。

❧ ❧ ❧ SÉRÉNADE

いつしかに
浅きあさうき名もたちけらし
浮世うきよ新道しんみち
夏のたそがれ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

母ひとり娘ひとりすめる明暮の
さみしからまし
白粉の花。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

美き衣を
炬燵にかけて今かとぞ
家出せし娘を母やまつらむ

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

ぬぎすてし小袖こそでのごとくうちしほれ
泣きぬるきみにせまる
たそがれ。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

お座敷ざしきの
あひまゝのて手習ならひも
あなたのためときけばいとほし。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

いそくと
オオバシウスの踏心地
ぬれてかへるもうれしき後朝。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

泣きながらくる袖萩の
絃のねじめか夜の秋雨。

SÉRÉNADE ❀ ❀ ❀

辻つじ褻せの

あはぬ話はなしもおもしろや

このきぬぐのうその涙なみだも。

❀ ❀ ❀ SÉRÉNADE

雪ゆきの日ひは

ゆふぐれかけて三味線しゃみせんの

音ねにこそたてね

きみこひわたる。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

そらどけしまゝにいつしか夏なつにいる
そなたの帯おびか
わが戀こひごろか。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

ふりかへりふりかへりゆく振袖ふりそでの
おもげにみゆる
小野おのの別路わかれぢ。

SÉRÉNADE ㊦ ㊦ ㊦

音^ねなたてそ
宵^よのねざめの落^{おち}櫛^{くし}も
身^みにしみぐくとひぐく戀^こごろ。

㊦ ㊦ ㊦ SÉRÉNADE

うかくと
街^{まち}の巷^{ちやう}にきにけりな
たぞ手^てをとりてわれにもいへ。

SÉRÉNADE ❧ ❧ ❧

二人して
壁にかゝれし樂書を
けしにしのんだ宵もあつたけ。

❧ ❧ ❧ SÉRÉNADE

提灯の
影に切火の音きこゆ
放埒の目も夕に在るや。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪


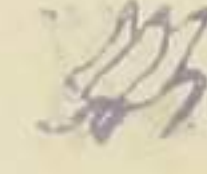
春はるの夜よの牕まどよりなげし文ふみ殻がらが
わがゆく海うみを白しろ鷗かもめとぶ。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

子供こどもでもないのに
どうしてこんなこんなに寂さびしいやら
ねまきの袖そでをそつといだけば。

SÉRÉNADE   

もしやそなたかと
門のとこまででゝみたに
なんにもなくて雨ばかりふる。

   SÉRÉNADE

ほの暗き
藏の二階にいだかれし
白縫姫よ遠くわかれぬ。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

青^{あお}き脈^{みやく}ほのになしき御^み手^てとりて
垣^{かき}を越えけり茨^{いばら}の垣^{かき}を。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

かの夏にわかれましたものを
さいかちのいつか實^みとなり
からくゝとなる。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

日ほくれぬ
くれてもひとのみゆるかと
とさせし窓をあくるときめき。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

名もきかず日も忘れけり
紅薔薇
髪にかざせし娘とばかり。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

數多かずおほくく
赤あかき鳥居とりゐのならべるも
戀こひするひとのつきぬ恨うらみも。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

鴨川かもがわや
露臺ろだいにちかき小夜さよ千鳥ちどり
うつななにきくあさき思おも寝ひね。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

しやなくくと天神様の反橋を
喜蝶がわたる
春の晝かな

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

白猫と
ジヨウカアとでたわむる、
林檎畑の春の夜の月。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

袖屏風
はれがましやとたち舞へば
きみのだらりのなげく
春の夜。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

朝詣
よき子たまへと石投ぐる
華表のうへの有明の月。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

とつおいつ
紙屋治兵衛が橋わたる
師走九日小夜千鳥なく。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

うしろより
わが眼ふたぐはたれなるぞ
とへどもいはぬ春の清水。

SÉRÉNADE ♪ ♪ ♪

なが子の戀はまたもやぶれぬ。
綻ほころびし衣きぬはぬはずもよしや母はは。

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

しくくと
涙なみだぐみたる灯ひがふたつ
とけつもつれつ水みづにながる。



■ 小 夜 曲 ■

大正四年十二月十八日印刷
大正四年十二月二十日發行

(定價九拾五錢)

著 者

竹 久 夢 二

東京市牛込區矢來町中の丸五八號

發 行 者

佐 藤 義 亮

東京市牛込區矢來町中の丸

發 行 所
新 潮 社

東京市神田區宮本町五番地

高 橋 治 一

印 刷 者

新 潮 社 印 刷 部

東京市神田區宮本町五番地

♪ ♪ ♪ SÉRÉNADE

聲々に

いとまごひするそのなかに

ひとり泣きぬしきみを忘れず。

竹久夢二著

——第四版出來——

繪入
小唄集
三味線草

定價九拾五錢
郵送料八錢

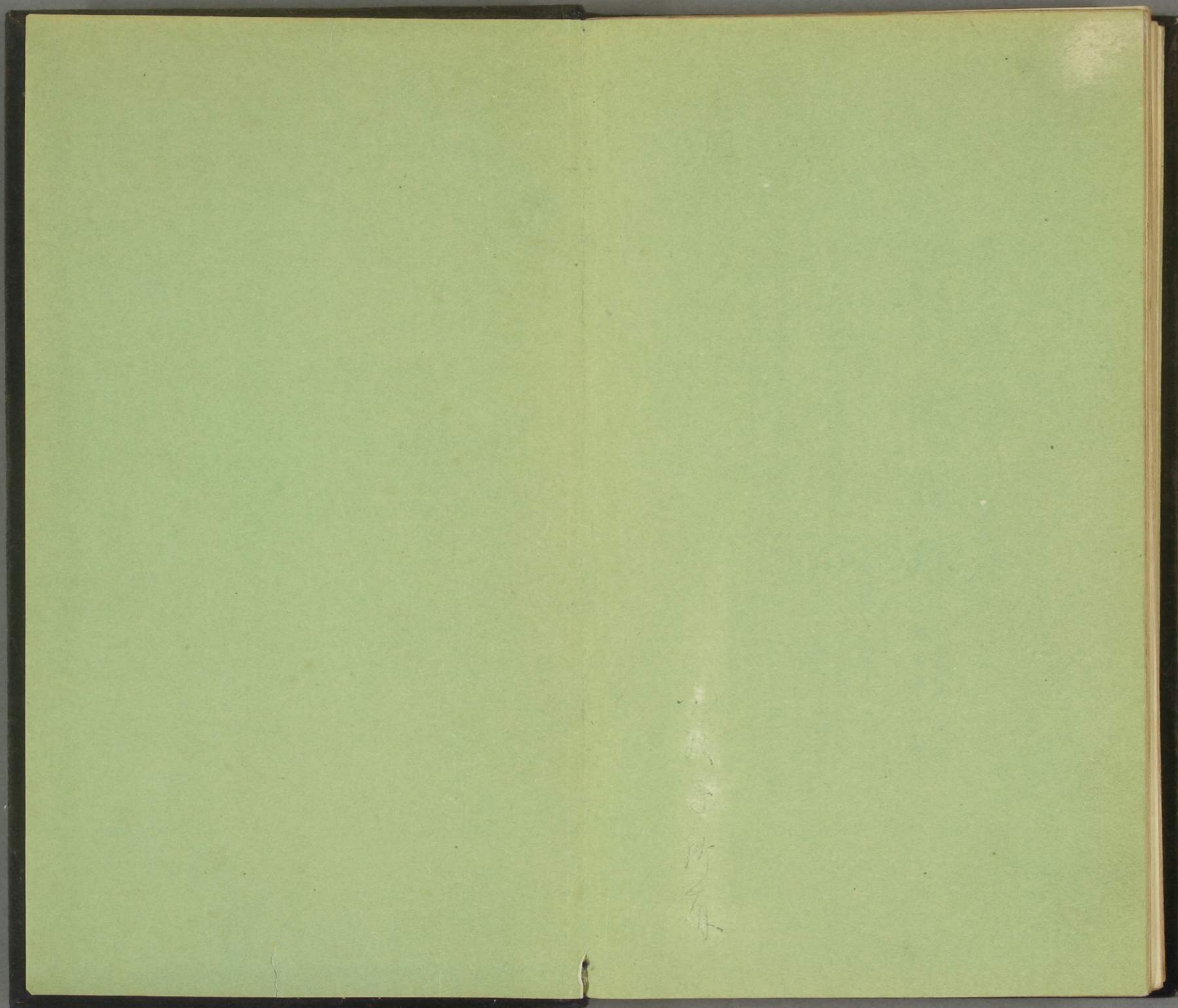
——著者曰く——

この一卷を櫻さく三味線の國の娘達
におくる。

あはれわが娘達よ。騎士ナイトのためなら
ずば、ゆめぐ歌ふことなかれ。

■特製伏入表装——著者の新考
案になり優雅艶麗の美本也
■挿畫四十數葉——十數度の木
版彩色刷、及びコロタイプ版
■本文百九十頁——新古の小唄
より著者會心のものを集む。

ナ
7
5
0



一
二
三
四
五
六
七
八
九
十